2022年10月号　　題字　一萬田 尚登 第5代日印協会会長

月刊インド

Monthly Journal of the Japan-India Association

公益財団法人 日 印 協 会（日印間の政治・経済・文化・人的交流に貢献して119年）

10月6日 ヴァルマ駐日インド大使閣下ご夫妻歓送夕食会

ヴァルマ大使夫妻と齋木日印協会理事長。銀座クレストンに於て
（写真提供：在日インド商工協会）

目次

特集シリーズ　歴代元駐インド日本大使が日印国交樹立70周年を振り返る
　第5回　私の経験した日印国交樹立70周年（八木 毅）…… P. 3
日本とインドの絆…… P. 6
インド国会議員5人が齋木昭隆JIA理事長を訪問…… P. 7
インドニュース（2022年9月）…… P. 8
新刊書紹介…… P. 16
イベント紹介…… P. 12
掲示板…… P. 18

日本とインドの絆
Ties between Japan and India

ホテルマネージメントインターナショナル株式会社 代表取締役社長
日印協会理事
比良竜虎

インド独立の翌年にジャイプルで生まれ、最初の東京オリンピックの年に来日し、1976年に日本に帰化した私は、生まれる前から日本とご縁がありました。私の祖父と父や叔父たちが、明治時代から日本で事業を行っていたのです。

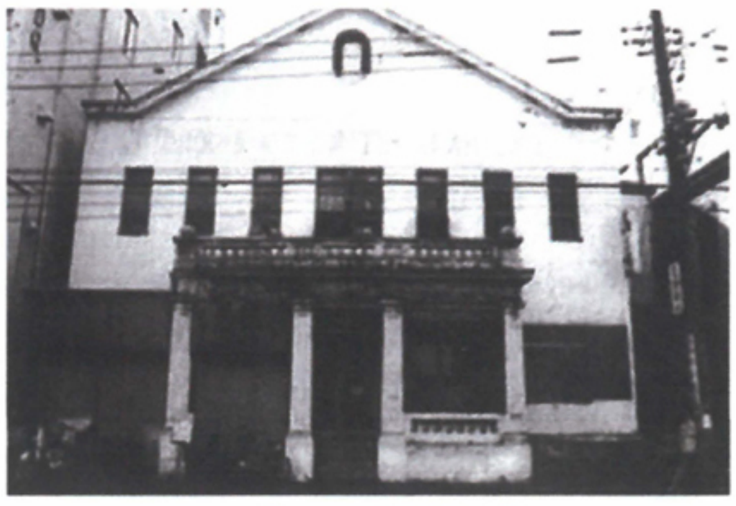
日露戦争の直前の明治35年（1902年）、ロシアの極東進出を阻止するために日英同盟が結ばれました。この同盟には外国企業を日本に誘致するという条項があり、日本にやって来た300社のうち、50社が英領インドの企業だったそうです。明治から大正、昭和にかけて来日したインド系の企業は、横浜と神戸で事業を始めました。このうちの1社が父たちの会社でした。私たちの他に、香港上海銀行やシティーバンクなどの英国・香港・欧米系の企業約160社と、中国系企業約90社もやって来たそうです。

大隈重信先生、渋沢栄一先生をはじめとする方々によって日印協会が設立されたのは、その翌年の明治36年（1903年）のことでした。この協会は、日印両国民の親善を深めることを目的に、インド事情の調査や日本文化と経済事情の紹介などを行うために設立されたのですが、活動の本格化にあたっては、私の父ケムチャンドや、叔父のパラスラムや、親戚のダラマルも尽力したと当時の資料には記されています。

さて、父たちの会社を含めたインド系企業の主な仕事は、日本製品を海外に輸出することでした。これにより日本は外貨を稼ぎ、国の外貨建て債務を債権に変えることができたわけです。

当時、インドに輸出されていたものは、主に三つありました。一つは日本のシルクです。インドに駐留していた英軍の婦人たちが質の良い日本のシルクで作られたドレスを求めたのです。もう一つは日本の靴です。インドには「日本の靴は世界一。私の靴は日本製」という子供の歌があるほど、日本の靴は人気がありました。そして、もう一つ人気だったのが日本の造花です。当時は冷蔵装置もなく、インド国内での生花の輸送はままならないものでした。日本の造花の品質は素晴らしく、大変喜ばれたそうです。父たちの会社も、こうした日本の製品をインドに送る輸出業に携わっておりました。まだ私が生まれていない、大正時代の話です。

大正10年（1921年）2月には、横浜で事業を展開していたインド系企業が集まって、横浜印度商協会（現在の公益社団法人在日インド商工協会）が結成されました。


旧横浜印度商協会ビル
1955年3月～1996年3月

横浜からインドへの貿易は順調に進んでいましたが、大正12年（1923年）9月1日、関東大震災が発生し、インド商館が建ち並んでいた横浜山下町は壊滅的な被害を受けました。当時、横浜にいた約二百数十名のインド人のうち28名が亡くなり、父の弟にあたる叔父も命を落としました。震災直後の大混乱の中では、犠牲者の火葬も法要もろく

に行えなかったそうです。

後年、横浜印度商協会は、インド人犠牲者28名の追悼と、被災後に横浜市民がインド人コミュニティに差し伸べた援助への感謝の意を込めて、山下公園に「インド水塔」を建て、横浜市に寄贈しました。昭和14年（1939年）の建立当時は、まだ横浜市内の水道設備は整っておらず、住民の方に井戸水を提供できれば亡くなった方々への供養になるという思いが、父にはあったようです。今でも毎年9月1日になると日印両国の関係者が「インド水塔」に集い、横浜ムンバイ友好委員会主催による追悼式典を行っています。

山下公園内にあるインド水塔
（ウキペディアより）

被災した外国企業に対して、日本政府は誠意をもって対応してくれました。父たちは、多くの外国人と共に神戸に避難しました。神戸では、外国人向けにレンガ作りのバラックが用意されており、安心して暮らすことができたそうです。

その頃、神戸からインドへ、新たに輸出され始めたものがありました。それは高知県産の珊瑚です。インドでは、珊瑚はお祭りやお祝い事に使われるとても貴重なものでした。

関東大震災の翌年、横浜市は神戸に移った外国人たちを再び横浜に誘致しました。経済復興のためには、輸出業者が不可欠だったからです。インド系企業50社のうち、34社は神戸に留まり、16社が横浜に戻ったそうです。彼らには横浜の埋め立て地に建てられた1階が店舗、2階が住居になっている商館（ショップハウス）が用意されていました。道路を挟んで反対側には、中国人たちの商館が並んでいて、それが現在の横浜中華街へと発展していきました。百数十名いた西洋人たちは山手に居を構えました。現在そこには西洋館や外国人墓地があります。

1950年日印平和条約の締結
（インド大使館提供）

終戦後の1952年、父たちは横浜に戻って来ました。それはインドと日本にとって記念すべき年でもありました。

第二次大戦後、連合国と日本とでサンフランシスコ講和条約が結ばれましたが、インドのネルー首相には「他の国々と同様に、日本にも名誉と自由を与えるべき」という考えがあり、この条約には調印しませんでした。1952年、インドは単独で日本との日印平和条約を締結しました。この条約には、インドにある日本の財産を没収しないこと、インドの賠償請求を放棄することが謳われており、当時では考えられないほど、日本に対して寛大なものでした。

実は歴史的にはあまり知られてはいませんが、インドが親日国となった所以に、昭和天皇にまつわるエピソードがあります。イギリスが去った後のインドは大変貧しく、人々には着る物も満足にありませんでした。皇室は外交には口出ししない原則ですが、日々の衣服にも困っているインドの人たちのことを知った昭和天皇は、自ら宮内庁に指示されて、三年間にわたって、インドに無償で生地を送ってくださっていたそうです。東レや帝人が作るナイロンやジャージなどの生地で、インドの人々は衣服やサリーを手に入れることができるようになりました。この輸出を担当したのが、父たちの会社を含めた7社でした。

戦後の日本で著名なインド人の一人に、いわゆる東京裁判で判事を務めたパール判事がいます。パール判事は国際法を専門とする裁判官として、この裁判の違法性を指摘し、被告全員の無罪を主張しました。靖国神社境内にある遊就館の隣に、パール判事の肖像写真とその意見書の言葉を刻んだ顕彰碑があります。今から四代前のインド大使と日本の関係者との連携によって建てられたものです。その際は、私もお手伝いさせていただきました。

1957年、インドは国賓として当時の岸信介総理大臣をお迎えしました。ネルー首相は国民への演説の中で「この方が自分の尊敬する国、日本から来た首相です」と岸総理を紹介しました。インドの指導者が日本を「真の友」として歓迎したのです。

1957年岸首相のインド訪問

インド国会は、広島と長崎の原爆忌に毎年黙とうを捧げています。昭和天皇のご崩御にあたっては、インド国は三日間の喪に服しました。また今年の安倍元首相のご逝去にあたってもインド国は喪に服しています。

日本に住むインド人の数は20世紀の終わり頃から急速に増え始め、2021年6月現在では3万6千人以上となっております。コロナウイルス流行のため、ここ1、2年のインドからのインバウンドは減少していますが、日本に好感を持つインド人は多いため、これから増えていくことでしょう。私が来日したのは東京オリンピックの頃で、当時はパンを買うのも一苦労でしたが、今はたくさんのインド料理店が全国にあり、インド料理好きの日本の方も多いと聞きます。ヨーガやアーユルヴェーダ、インド哲学やヴェーダ詠唱を学ばれる方、インド映画やインド舞踊、インド音楽を好まれる方も増えています。これから日印交流はますます発展していくことでしょう。

最後になりますが、1921年に創立された社団法人横浜印度商協会を前身とする公益社団法人在日インド商工協会は、昨年百周年を迎えました。これも皆様のご指導ご支援の賜物と深く感謝申し上げる次第でございます。

比良 竜虎 （ひら・りゅうこ）

1948年（昭和23年）インド生まれ （1976年 日本国帰化）HMIホテルグループ 代表取締役社長

1998年にホテルマネージメントインターナショナル（株）を設立。54年に亘り、28都道府県において7つのブランドのもと、62軒のホテルを所有・経営。

公益社団法人在日インド商工協会 会長、公益財団法人日印協会 理事をはじめ、複数の経済・文化団体 理事。日印親善交流促進のため、奨学金・要人の来日受け入れ・手配、文化・経済活動を目的とした「一般財団法人サイヒラインド財団」 理事長。インド国大統領より叙勲、PBS（パラヴァシィ・バーラティア・サマン）勲章を、2022年3月にインド共和国の民間功労者に叙勲される最高位勲章、パドマ・シュリ勲章を授章。